

(別紙様式1)

「新技術導入による花き安定生産の推進」

上都賀農業振興事務所経営普及部

上都賀地域の地域戦略「上都賀地域の強みを伸ばす「施設園芸経営体の所得向上」」

県実施方針の重点取組事項 「明日へつなぐ」「強みをのばす」

1 取組の背景・ねらい

上都賀地域の施設園芸は、品質面を中心に産地のブランド化が進んでおり新規就農者に占める割合も高いなど更なる発展が期待できます。そこで、所得向上に意欲ある経営体を明確化し、所得目標を達成するための課題を個別に洗い出し、基本技術の再点検や、新品種・新技術の導入等、改善に向けた取組を総合的にマネジメントしています。

特に花き生産においては、近年の夏場の高温により、生理障害や奇形花の発生、病害虫の増加による品質・収量の低下が問題となっています。そのため、新技術の導入により、これらの状況を改善し、所得向上を図りました。

目標項目	R2実績	R6目標	R6実績	R7目標
新技術導入による経営改善取組実施戸数	-	9	13	10

〔目標設定の考え方〕

- ・効率よく導入推進するため、まず各品目（7品目）でモデル経営体1戸の育成を目指す。
- ・さらに、影響力があり高い波及効果が見込めるとして農業士（3戸）を対象にする。

2 活動対象

(1) 対象名

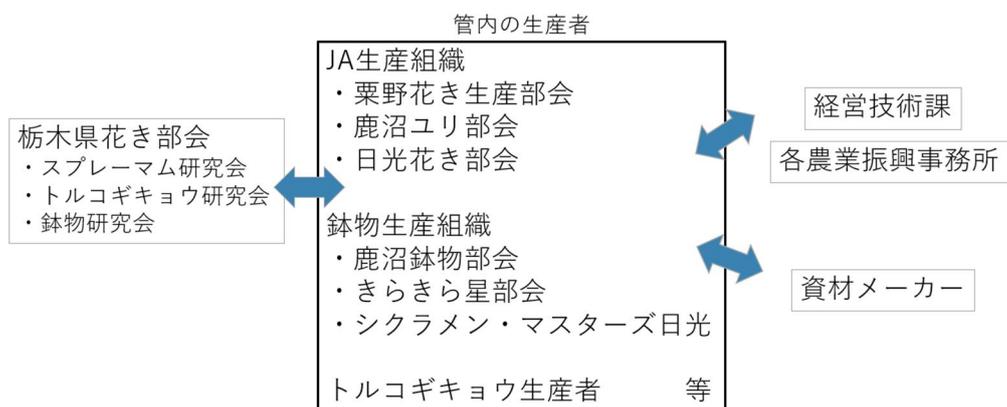
JA生産組織、県鉢物研究会、トルコギキョウ生産者

(2) 対象の概要

新技術導入による安定生産技術推進：JA生産組織（3部会）、県鉢物研究会（3組織）、
県トルコギキョウ研究会、県スプレーマム研究会

3 活動の内容

(1) 指導・支援の体制



(2) 活動経過

ア 高温対策技術の導入推進

JA 生産組織（3 部会）において、りんどう、ユリ、スプレーマムの栽培特性やハウス構造を考慮し、品目に適した遮熱資材を選定して効果検証を実施しました。実施にあたっては、補助事業の活用や資材メーカーの協力を調整し、導入負担の軽減に努めました。また、県研究会組織と連携し、現地検討会などを通じて県内での情報共有を進めました。

さらに、鉢物生産組織においては、6月に遮熱塗布剤を使用した生産者のほ場で現地検討会を開催しました。いずれの組織でも併せて学習会を行い、高温対策技術の導入効果に対する意見交換を実施しました。

イ LED による害虫防除技術の導入推進

鉢物生産組織において、アザミウマ類対策として赤色 LED、ヤガ類対策として緑色 LED について、6月および10月に設置ほ場で現地検討会を実施し、導入の促進を図りました。また、学習会時に技術資料を配付し、適正な使用について周知しました。

ウ 低濃度エタノールによる土壌消毒法の導入推進

立枯病に悩んでいたトルコギキョウ生産者に対して、既に技術事例のあった低濃度エタノール土壌還元消毒法の実施を勧めました。さらに、グリーンな栽培体系への転換サポート事業を活用し、他地域と合同で展示ほを設置し、検討会を行いました。実施に際しては、メーカーと連携し、土壌の菌密度分析を実施しました。

4 活動の成果結果

(1) 高温対策の重要性の理解促進

JA 生産組織（3 部会）において、メーカーと連携し遮熱資材の展示ほを設置した結果、対策効果が周知され、理解が促進されました。さらに、生産者は、自身の肥培管理を再検討し、地温抑制対策を考慮するなど、高温期の品質向上に向けた栽培体系の見直しにもつながりました。また、鉢物生産者（研究会）においては、高温対策を実施する戸数が令和2年度の0戸から、令和6年度現在では5戸に増加しました。

(2) LED による害虫防除技術の活用促進

LED 導入農家の使用状況や効果を調査し、技術資料を作成して現地検討会や学習会を実施した結果、点灯時間が適正化され、LED をより効果的に活用できるようになりました。令和6年度現在、7戸の鉢物生産者が導入しています。

(3) 低濃度エタノールによる土壌還元消毒法の普及

トルコギキョウ生産者において低濃度エタノール土壌還元消毒の実施により、防除効果が高まり、立枯病発生率を1割未満に抑えることができました。また、他地域と合同で実施した結果、県内全域での導入が進みつつあります。

5 今後の対応策

(1) 新技術の導入による花き経営の所得向上

品質の高位安定化は、出荷量の増加と単価の向上が期待できるため、花き経営体の経営改善に寄与します。このため、赤色および緑色 LED の利用や低濃度エタノール土壌還元消毒法など、環境にも配慮した新技術導入を推進します。

		
現地検討会での 遮熱塗布剤の検討	赤色 LED 点灯による アザミウマ類対策	低濃度エタノール土壌還元消毒